

2016年8月18日 全6頁

FRB 銀行上級貸出担当者調査（2016年7月）

企業向けローンの貸出基準の厳格化が続く

ニューヨークリサーチセンター
上野 まな美
シニアエコノミスト 土屋 貴裕

[要約]

- 2016年7月の調査によると、企業向けローンにおいては、商工ローンと商業用不動産ローンともに貸出基準が厳格化された。借入需要は、商工ローンにおいてほとんど変わらず、商業用不動産においては増加した。
- 家計向けローンでは、住宅ローンの全分野における貸出基準にはほぼ変わりがなかった一方、消費者ローン貸出基準の変化は様々であった。借入需要は、住宅ローンの大半の分野で増加し、消費者ローンの需要も全分野において増加した。

FRB（連邦準備制度理事会）の2016年7月の銀行上級貸出担当者調査（Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices）は、2016年4月から6月の3ヵ月間における銀行の企業向け及び家計向けローンの貸出基準、貸出条件、借入需要の変化に関する調査である。同調査では、米国銀行71行と、米国に支店を持つ外国の大手銀行23行が対象になった。

企業向けローンに関しては、商工ローンと商業用不動産ローンともに貸出基準が厳格化された。借入需要は、商工ローンにおいてほとんど変わらず、商業用不動産においては増加した。

家計向けローンは、住宅ローンの全分野における貸出基準がほぼ変わらなかったが、GSE（Government-Sponsored Enterprise：政府支援機関）適格住宅ローンの貸出基準を緩和した銀行があった。住宅ローンの借入需要は、大半の分野で増加した。消費者ローンに関しては、貸出基準の変化が様々であった一方で、全分野において需要が増加した。

今回、貸出基準の適正水準を問う特別調査が行われた。それによると、投機的格付けの企業に対するシンジケートローンを除き、商工ローン全分野における銀行の現在の貸出基準は、2005年から現在までの貸出基準の中央値より緩和されている。しかしながら、商業用不動産ローンにおける現在の貸出基準は、一般的に全分野において2005年から現在までの貸出基準の中央値より厳格化されている。企業向けローン全体では、1年前に行われた同様の調査の回答に比べると貸出基準を緩和した銀行が少なく、厳格化した銀行の方が多かった。

住宅ローンの現在の貸出基準は、全分野で2005年から現在までの貸出基準の中央値よりも厳格化されており、サブプライム層向けの消費者ローンも貸出基準が厳格化されている。反対に、プライム層向けの消費者ローンに対しては、現在の貸出基準が2005年から現在までの貸出基準の中央値よりも緩和されている。

また、今回の特別調査では、非預金取扱金融機関に対する現在の貸出基準についての質問が新たに加えられた。非預貯金取扱金融機関に対する現在の貸出基準は、2005年から現在までの貸出基準の中央値よりも厳格化されているとの回答があった。

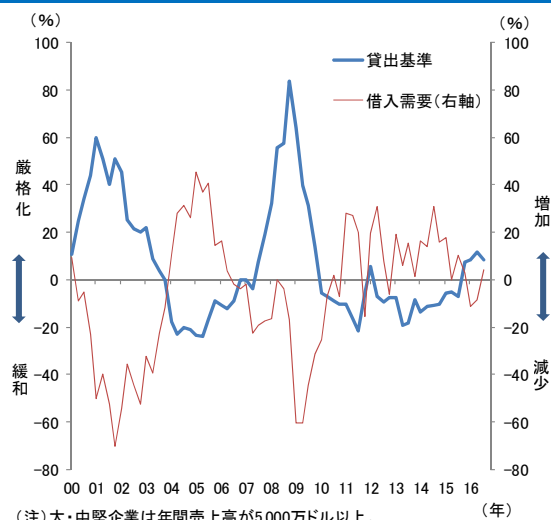
商工ローン

商工ローンの貸出基準は、大・中堅企業向け及び中小企業向けともに厳格化された。大・中堅企業向けの貸出条項の変化に関しては回答が様々であり、資金コストに対する貸出金利のスプレッドを縮小した銀行があったほか、リスクが高いローンに対するプレミアムを引き上げた銀行もあった。中小企業向けの貸出条件も回答が様々で、金利のスプレッドを縮小し、金利フロアの使用を減らした銀行もあったが、リスクが高いローンに対するプレミアムを引き上げ、貸出条項を厳格化した銀行があった。商工ローンの貸出基準や貸出条件を厳格化した米国銀行の大半は、不確かな経済見通しや業界特有の問題の悪化、リスク許容度の低下を重要な理由として挙げている。一方、貸出基準や貸出条件を緩和したと回答した米国銀行は、他の銀行やノンバンクとの競争激化を主な理由としている。

商工ローンの借入需要は、大・中堅企業、中小企業からの需要ともにほとんど変わらなかつ

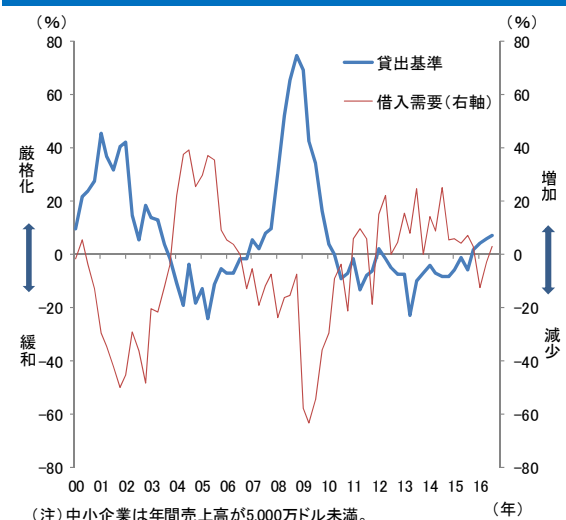
た。しかし、借入需要が増加したと回答した大半の銀行は、顧客の在庫や売掛債権の資金ニーズの増加、設備投資の増加を重要な理由としている。その反対に、借入需要が減少したと回答した半数以上の銀行は、顧客の在庫や売掛債権への資金ニーズの減少、設備投資の減少を理由として挙げた。

大・中堅企業向け商工ローンの貸出基準及び借入需要



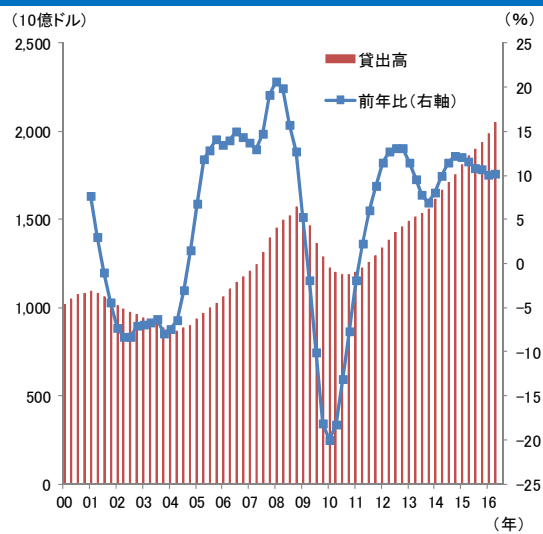
(注) 大・中堅企業は年間売上高が5,000万ドル以上。
(出所) FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

中小企業向け商工ローンの貸出基準及び借入需要



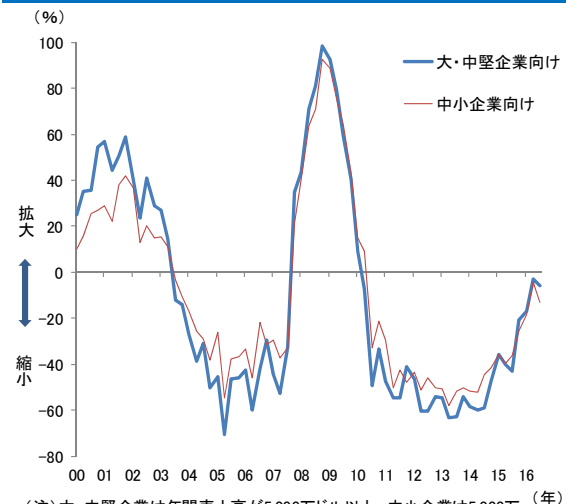
(注) 中小企業は年間売上高が5,000万ドル未満。
(出所) FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

商工ローンの貸出高及び前年比(全商業銀行)



(出所) FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

商工ローンの金利スプレッド



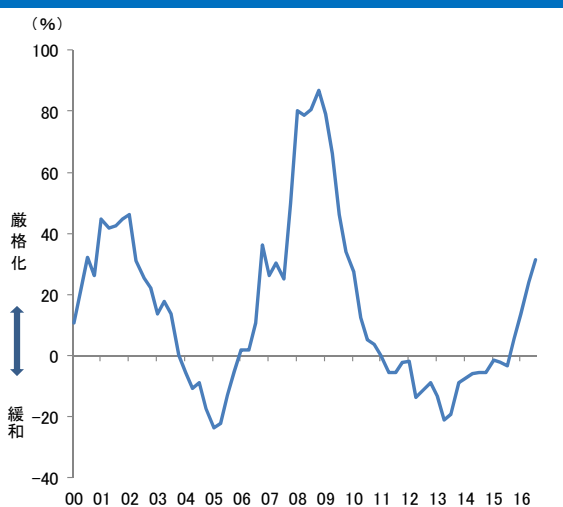
(注) 大・中堅企業は年間売上高が5,000万ドル以上。中小企業は5,000万ドル未満。
(出所) FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

商業用不動産ローン

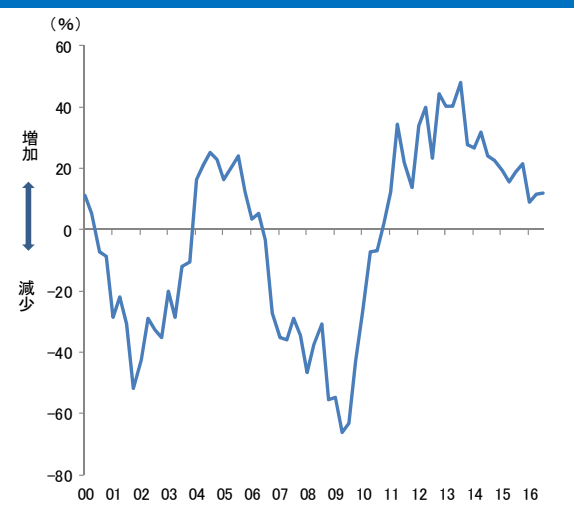
商業用不動産ローンの全分野（建設及び土地開発、非農業用・非住宅用不動産物件、集合住宅物件）において、全般に貸出基準が厳格化された。特に、建設及び土地開発と集合住宅物件に対する貸出基準の厳格化が目立った。

商業用不動産ローンの借入需要は、全般的に全ての分野において増加した。

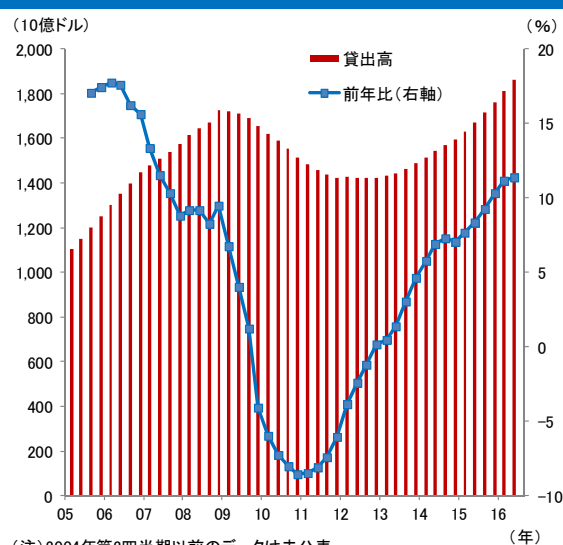
商業用不動産ローンの貸出基準



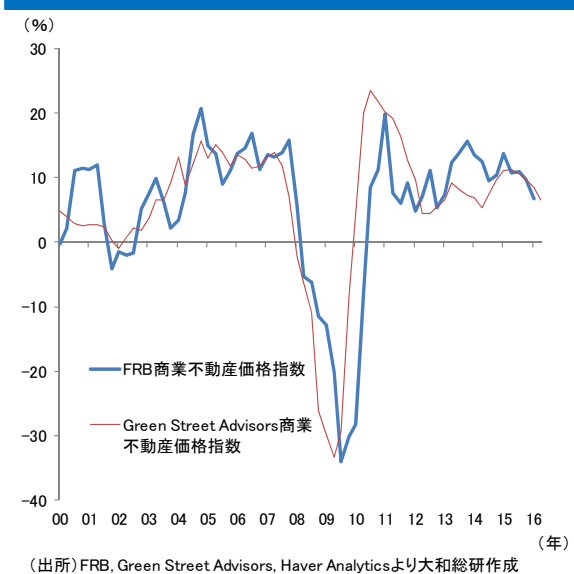
商業用不動産ローンの借入需要



商業用不動産ローンの貸出高及び前年比(全商業銀行)



商業用不動産価格の推移(前年比)



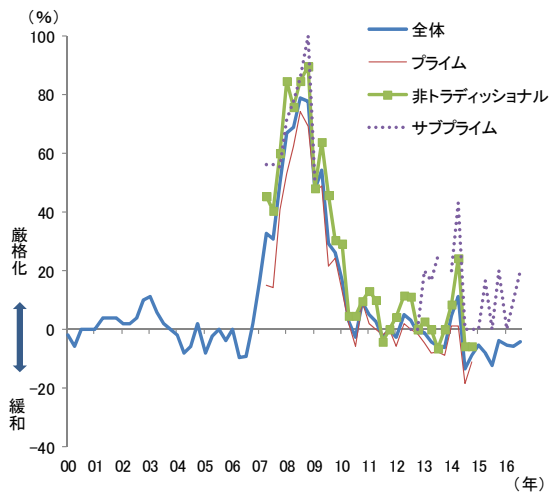
住宅ローン

住宅ローンの貸出基準は、GSE 適格住宅ローンの貸出基準を緩和した銀行があったが、他の分野の住宅ローンに対する貸出基準は基本的に変わらなかった。

住宅ローンの借入需要は、大半の分野で増加した。GSE 適格住宅ローン、政府住宅ローン、QM (Qualified Mortgage: 適格) 非ジャンボ・非 GSE 適格住宅ローン、QM ジャンボ住宅ローン、非 QM ジャンボ住宅ローンの需要増加が比較的目立った。

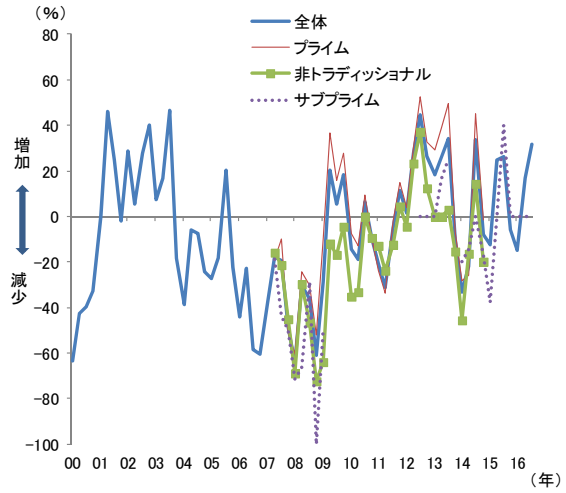
また、リボルビング式 HELOC (Home Equity Lines of Credit: ホーム・エクイティ・クレジットライン) の申請承認に対する信用基準にはほとんど変わりがなかったが、需要は増加したとの回答が多数あった。

住宅ローンの貸出基準



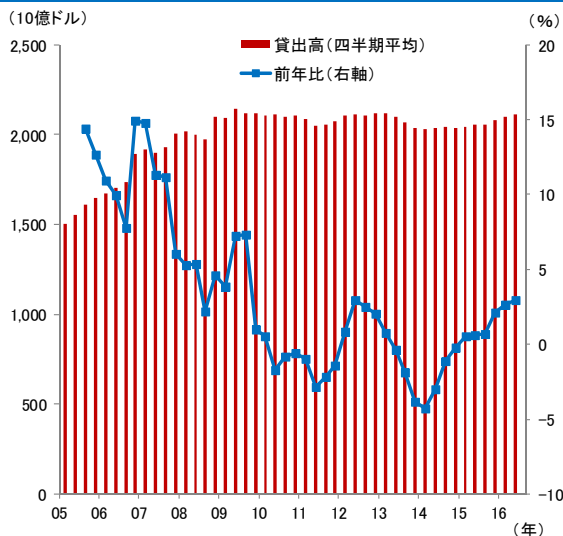
(注) 2007年第2四半期より、住宅ローンの分類別貸出基準を発表。2014年第4四半期からは、7つに分類。回答が3社以下の場合、データは未公表。
(出所) FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

住宅ローンの借入需要



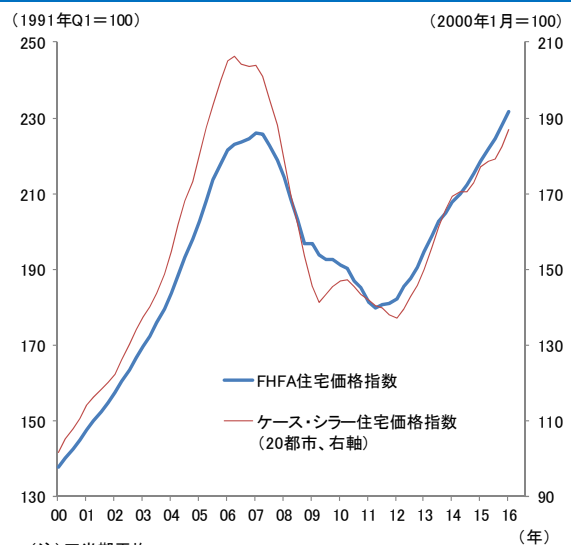
(注) 2007年第2四半期より、住宅ローンの分類別貸出基準を発表。2014年第4四半期からは、7つに分類。回答が3社以下の場合、データは未公表。
(出所) FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

住宅ローンの貸出高及び前年比(全商業銀行)



(注) 2004年第2四半期以前のデータは未公表。ホームエクイティローンを含む。
(出所) FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

住宅価格の推移



(注) 四半期平均。
(出所) FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

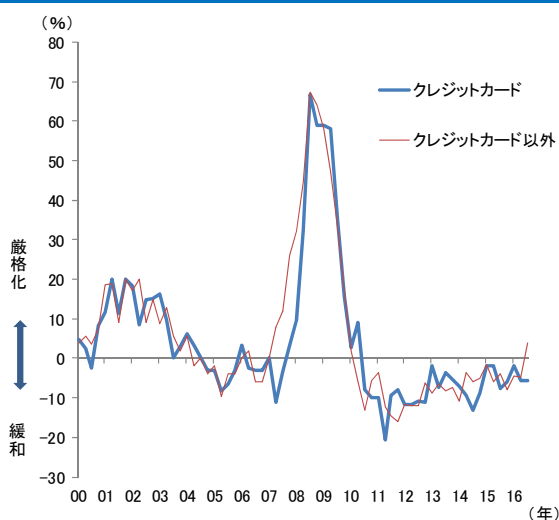
消費者ローン

消費者ローンへの貸出意欲が強くなった銀行があり、クレジットカードローンに対する貸出基準の緩和が見られた。その半面、自動車ローンの貸出基準を厳格化した銀行があったが、他の消費者ローンの貸出基準は基本的に変わらなかった。

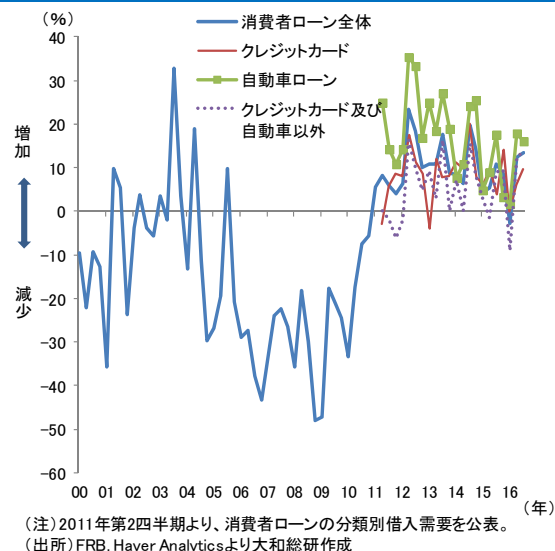
消費者ローンの貸出条件に関しては、資金コストに対するクレジットカードの未払金の金利のスプレッドを拡大したり、クレジットカードローンに最低必要とするクレジットスコアの引き下げを行った銀行があったほか、自動車ローンの貸出金利のスプレッドの拡大も報告された。クレジットカードと自動車ローン以外の他の消費者ローンに対する貸出条件には基本的に変わりがなかった。

消費者ローンの借入需要は、全般において増加した。

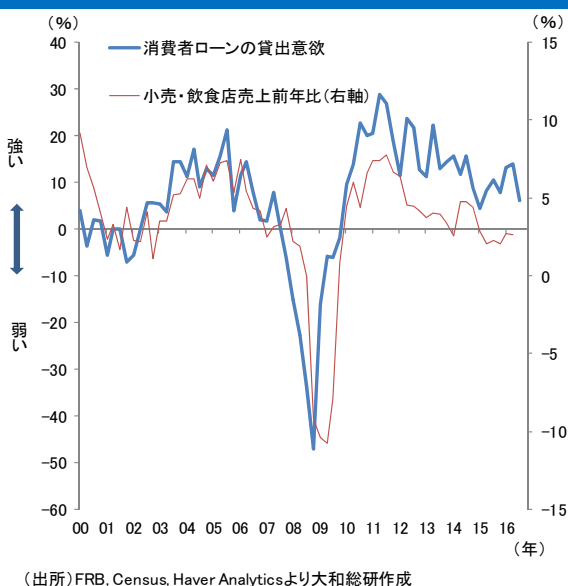
消費者ローンの貸出基準



消費者ローンの借入需要



消費者ローンの貸出意欲及び小売・飲食店売上前年比



家計の負債残高の構成(住宅ローンを除く)

